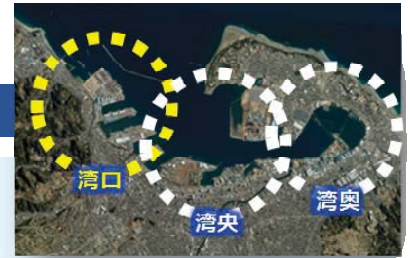


# 7 主要施策と空間利用のイメージ案

## (1) 湾口エリア (新興津・興津地区～袖師地区)



**物流・産業 ①-1** 次世代高規格コンテナターミナルの形成 (大水深多目的国際ターミナル化)

**コンテナターミナル 荷役機械の遠隔操作・自動化**

大水深多目的国際ターミナルはコンテナ船(歐州航路)と大型バールブ船の併用

新築ターミナル: 600m

既存ターミナル: 700m (耐震15m)

設備: 空シヤシヤ、空コンテナ、スマートゲート、RORO対応

情報技術を利用した自動受付

**新興津コンテナターミナル 概略イメージ図**

進内シヤシヤ遠隔操作・自動化

有人車両運搬

スマートゲート

想定される効果

- ・基幹航路維持
- ・物流効率化
- ・労働環境改善

**物流・産業 ②-1** 次世代高規格 ROROターミナルの整備

**自動船着岸対応**

次世代高規格 ROROターミナル

効率的な車両搬送管理

スマートゲートの導入

情報技術を利用した自動受付

耐震強化岸壁の整備

**「次世代高規格ユニットロードターミナル」のイメージ**

運航事業者との協働によるターミナル規格の統一

情報通信技術を活用したシャシ共同管理等

自動料金決済

船舶自動運航

自動船着岸装置

陸上船電施設

車両の自動運航

宿泊・休憩施設

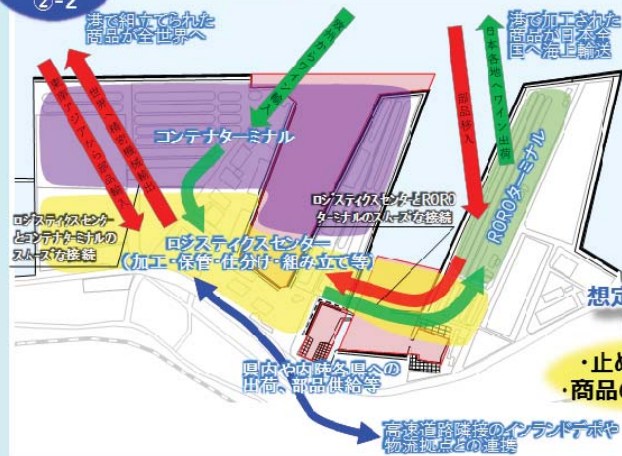
ユニットロードターミナルと個々のロジスティクス施設間を自動運転で接続

想定される効果

- ・物流効率化
- ・ドライバー不足への対応
- ・物流途絶時のリダンダンシー

物流・産業  
②-2

ROROとコンテナの連携による効率的な輸送手段の構築



コンテナとROROの連携による新たなサプライチェーンの構築イメージ  
**【例1:ワイン等】安全・安心**  
 EUからコンテナで輸入 → 精度の高い検品、ラベリング、仕分け、梱包 → RORO船から全国へ出荷  
**【例2:家電製品等】リードタイム短縮**  
 安価部品を東南アジアからコンテナで輸入、高価な精密部品をROROで移入 → 港内で組立商品化 → コンテナで世界に製品出荷

**農水産物輸出環境の強化**  
 輸出拠点港湾：清水港

流通加工機能を備えた物流施設  
 リーファーコンテナ電源供給設備

増加する農水産物の輸出需要に対応するため、清水港において小口貨物積替を行う「流通加工機能を備えた物流施設」を整備するとともに、冷蔵冷凍貨物を一時的保管する「リーファーコンテナ電源供給設備」を増設し、輸出環境を強化

想定される効果  
 ・止めない物流  
 ・商品の付加価値化

物流・産業  
③-1

安全安心な流通加工環境が整ったロジスティクスセンターの導入（港頭地区における在庫拠点化）



想定される効果

・付加価値を生む新たなサプライチェーンの構築  
 ・止めない物流

**【付加価値イメージ】**  
 ○リードタイム短縮(止めない物流)  
 港(海外との結節点)の在庫拠点化による輸送効率UP  
 ○安全・安心  
 精度の高い検品、仕分け、梱包・組立等の流通加工  
 複数拠点化によるリダンダンシー確保



物流・産業  
②-3

海洋レジャー拠点の形成（新興津）



想定される効果  
 ・地域活性化  
 ・観光消費増加  
 ・新たなビジネス展開

物流・産業  
④-1

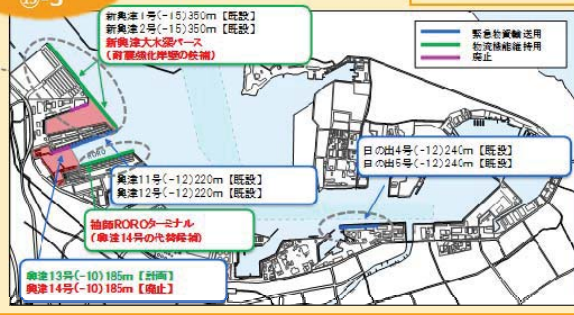
海浜・藻場の再生や生き物の生息場づくり



想定される効果  
 ・ふれあい空間形成  
 ・CO2削減

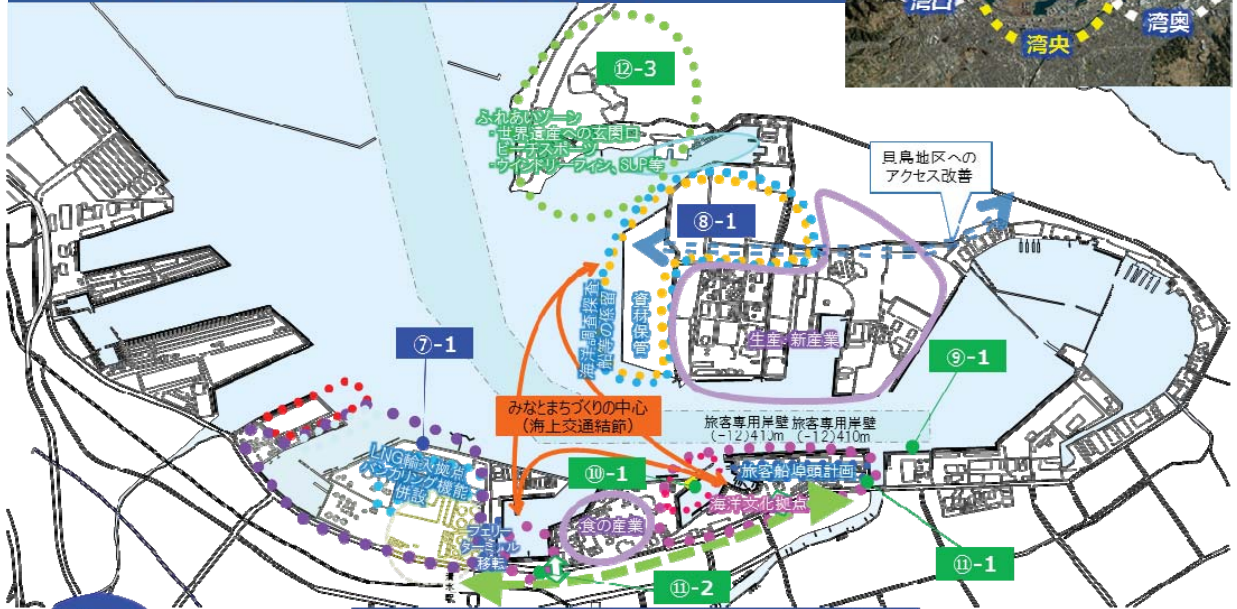
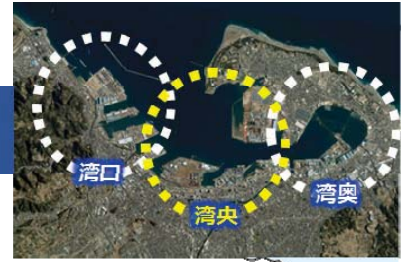
防災・危機管理等  
⑤-3

耐震強化岸壁の整備



想定される効果  
 ・安心・安全な社会  
 ・首都圏港湾の補完

(2) 湾央エリア  
(江尻・日の出地区～塚間・貝島・三保地区)



**物流・産業 7-1** LNG輸入拠点におけるバンカリング機能の導入検討

LNGバンカリングのイメージ

① LNG積込 → ② 運搬 → ③ LNGバンカリング

LNG燃料供給船 (イメージ) / LNG燃料船

**想定される効果**

- ・CO2排出削減
- ・持続可能な国際物流に寄与

**物流・産業 8-1** 産官学が連携した海洋研究拠点の形成

地球深部探査船「ちきゅう」

海洋調査研修船「望星丸」

マリンバイオテクノロジー

**想定される効果**

- ・地域産業活性化
- ・低未利用地の有効活用

※ 貝島地区廃棄物埋立護岸の前面水域は、漁業権が設定されており、構想の具体化にあたっては、十分関係者と調整する必要がある。

**物流・産業 10-1** スーパーヨット受入機能の確保

スーパーヨット受入施設候補地 (喫水-4.5m以下)

スーパーヨット受入拠点  
大型スーパーヨットはクルーズ専用岸壁で受入(喫水-4.5m以上)

**想定される効果**

- ・地域活性化
- ・観光消費増加

物流・産業  
⑨-1

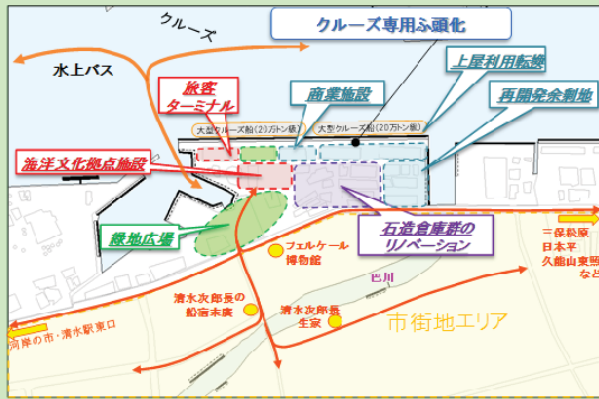
日の出ふ頭のクルーズ受入対応施設の整備



想定される効果 ・地域活性化 ・観光消費増加

物流・産業  
⑩-1

国際クルーズ観光及び海洋文化拠点を  
活用した交流・賑わいの創出（日の出）



想定される効果 ・地域活性化 ・観光消費増加

物流・産業  
⑩-3

海洋レジャー拠点の形成（三保）



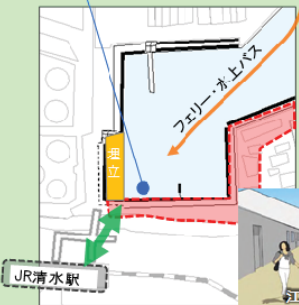
想定される効果

・地域活性化  
・観光消費増加

物流・産業  
⑪-2

食の拠点を活用した交流・賑わいの創出（江尻）

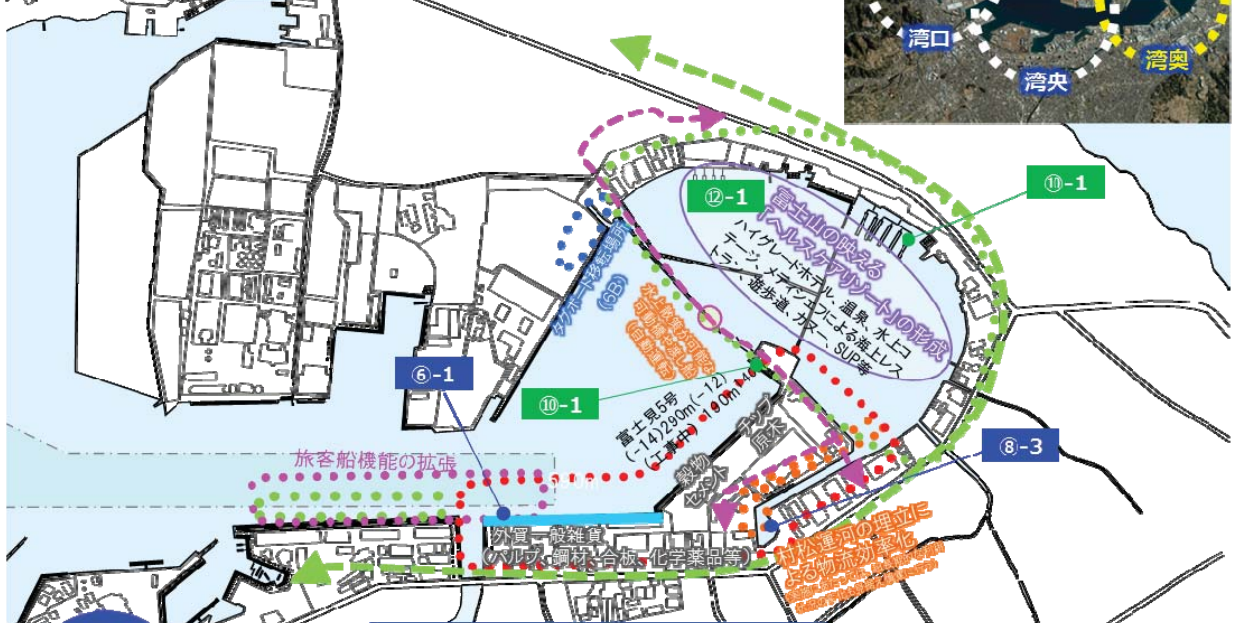
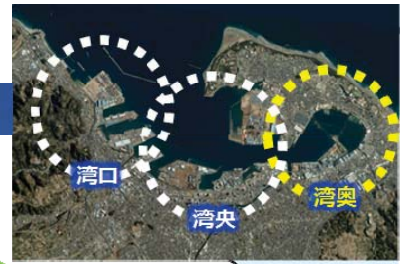
食の拠点  
(水産・飲食・物販)  
みなどオアシス(河岸の市等)を中心とした、清水  
ならではの食を提供する拠点 等



- ◇観光の交流  
・観光拠点の連携による相乗効果
- ◇物流の確保  
・鮮魚等の迅速な輸送ルート
- ◇高度医療の提供  
・西伊豆地域への高度医療提供

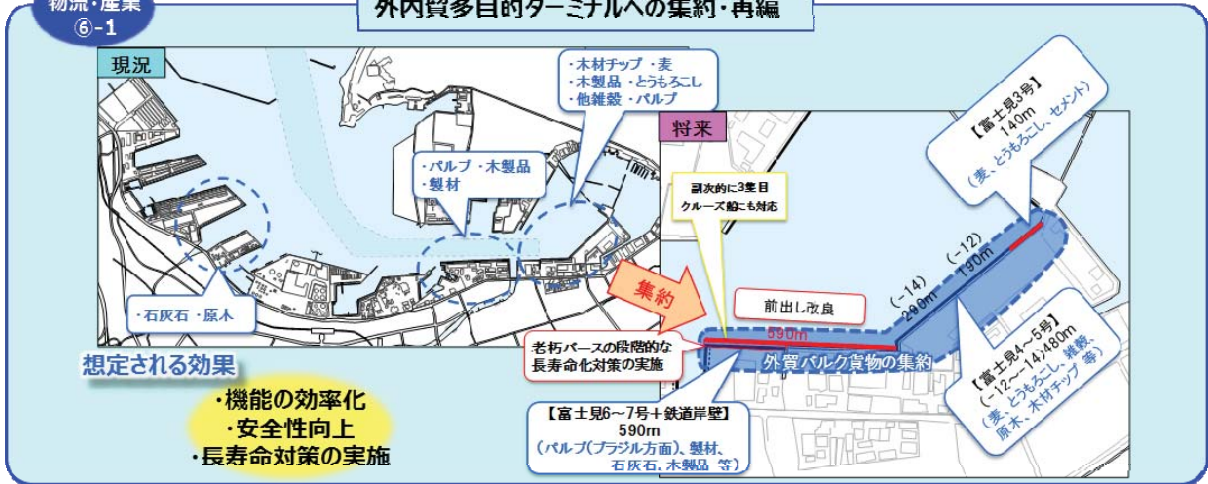
想定される効果 ・地域活性化 ・観光消費増加

### (3) 湾奥エリア (富士見地区～折戸地区)



物流・産業  
⑥-1

#### 外内貨多目的ターミナルへの集約・再編



物流・産業  
⑧-3

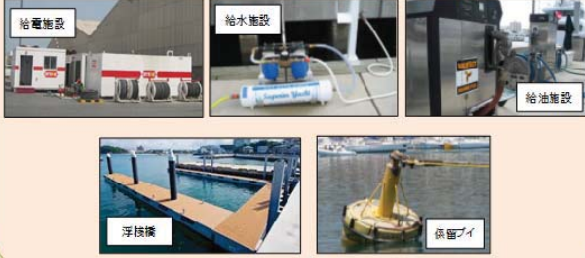
#### 村松運河の埋立による物流の効率化



物流・産業  
⑩-1

スーパーヨット受入機能の確保

スーパーヨットの受入に必要な設備

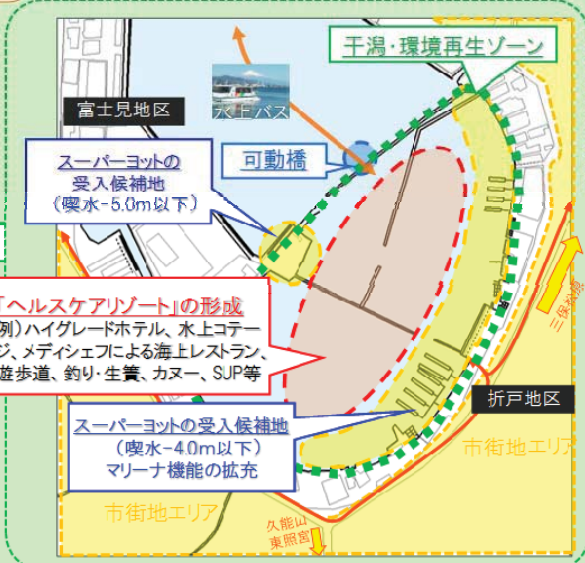


スーパーヨット寄港による地域の活性化



想定される効果

- ・地域活性化
- ・観光消費増加



物流・産業  
⑪-1

富士山の映える「ヘルスケアリゾート」の形成 (折戸)

可動橋(イメージ)



海洋レジャー(SUP)



海上レストラン(イメージ)



出典：(一財)日本観光協会資料

「ヘルスケアリゾート」の形成

例)ハイグレードホテル、水上コテージ、メディスシェフによる海上レストラン、遊歩道、釣り・生簀、カヌー、SUP等

スーパーヨットの受入候補地 (喫水-4.0m以下) マリーナ機能の拡充



想定される効果

- ・地域活性化
- ・観光消費増加
- ・まち再生

物流・産業  
⑫-1

海浜・藻場の再生や生き物の生息場づくり

在りし日の折戸湾



現在の折戸湾

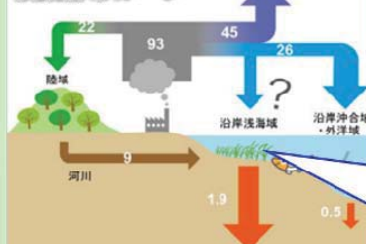


想定される効果

- ・親水空間確保
- ・CO<sub>2</sub>削減

Si 1 底質状況(木皮堆積)

炭素循環イメージ



出典:「ブルーカーボン」(地人書館)

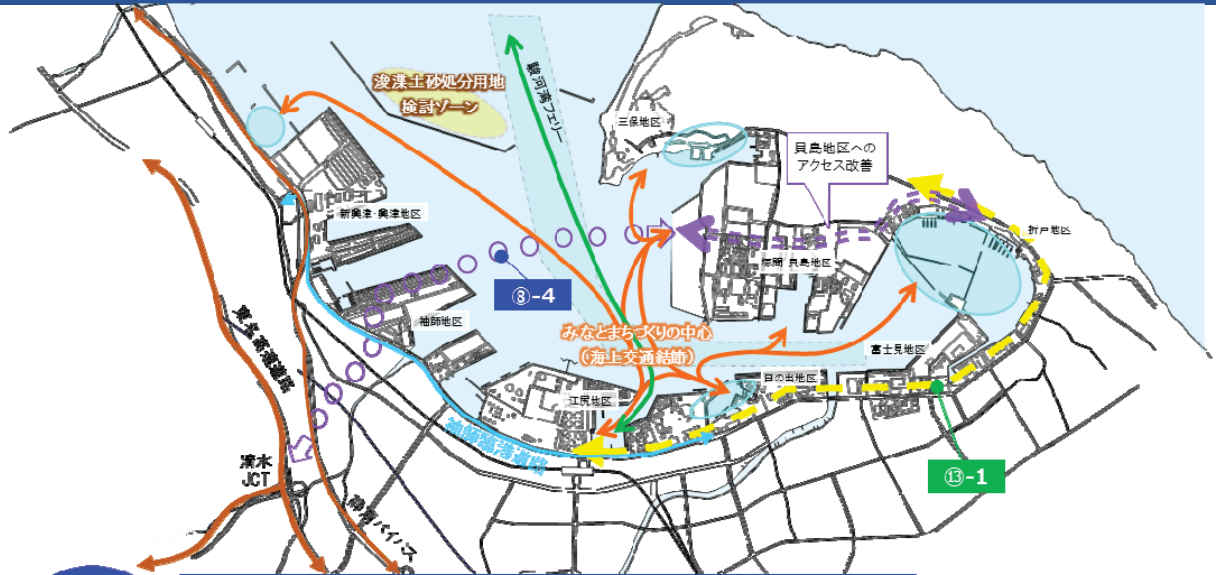
磯場(イメージ)



藻場再生(イメージ)



## (4) 全域



**物流・産業 ④-1** 内陸部の物流拠点（インランドデポ等）を活用した隊列走行の受入

**想定される効果**

- ・ドライバー不足への対応
- ・経営効率改善
- ・用地不足への対応

**物流・産業 ⑧-4** 道路構想

**想定される効果**

- ・将来的な三保
- ・貝島地区の利用の高まりへの備え

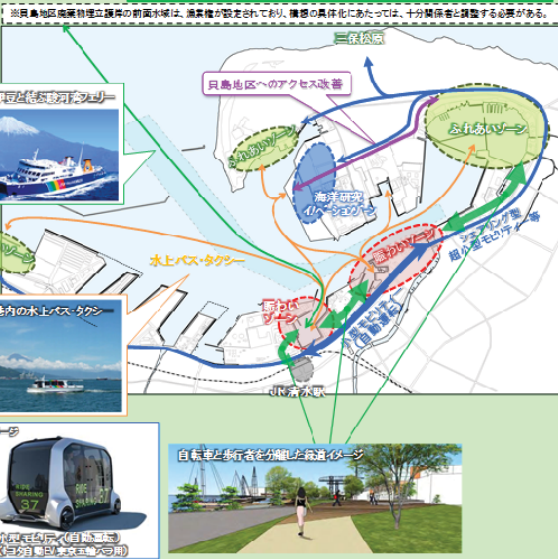
**物流・産業 ⑭-2** 美しい景観の創出

**想定される効果**

- ・世界に自慢できる景観美の創出
- ・観光交流人口の拡大

物流・産業  
⑬-1

小型モビリティの自動運転の活用と  
各地区の賑わい空間との連携



想定される効果

- ・港内回遊性の向上
- ・相乗効果による観光交流人口拡大誘発

物流・産業  
⑭-3

プレジャーボートの適正配置

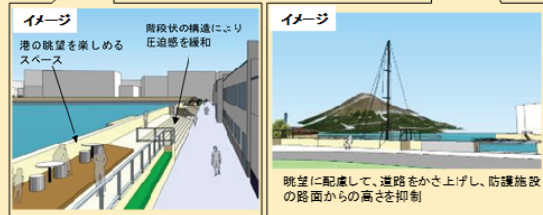


想定される効果

- ・水域の適正利用
- ・プレジャーボートの利用拡大

防災・危機管理等  
⑮-1・⑮-2

- ・津波防災対策の推進、  
無堤区間の早期解消
- ・みなとBCPの改善

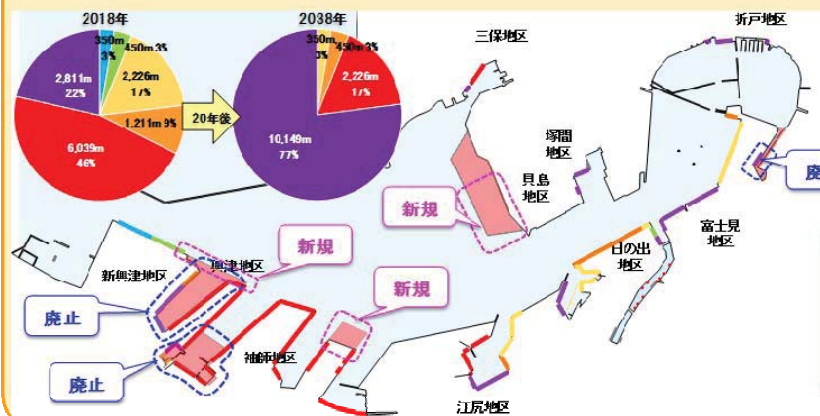


想定される効果

- ・安心・安全な社会
- ・物流効率化策との融合
- ・首都圏港湾の補完

防災・危機管理等  
⑯-1

老朽パースの段階的な長寿命化対策や埋立による施設廃止



想定される効果

- ・維持管理・更新コスト縮減
- ・安全・安心な利用環境創出

清水港全体の岸壁・物揚場総延長

現在(2018年) 総延長13,041m	
既設岸壁・物揚場	13,041m
将来(2038年) 総延長12,048m	約1,000m 減
既設岸壁・物揚場	10,418m
新設岸壁	1,630m
廃止岸壁	2,623m



## 8 長期構想検討委員会について

本長期構想の策定にあたっては、港湾関係者に加え、新技術や観光など様々な分野の有識者20名による検討委員会を設置し、計3回の委員会を実施し、検討を行っている。

### 清水港長期構想検討委員会 名簿（順不同・50音順）

氏名	役職	適用
秋田 典子	千葉大学大学院園芸学研究科 准教授	
荒木 勉	一般社団法人ヤマトグループ総合研究所 専務理事	
井上 剛	サッポログループマネジメント株式会社 グループロジスティクス部グループリーダー	
稲葉 健太	S Y L ジャパン株式会社 代表取締役	
海野 俊也	株式会社静岡新聞社 編集局専任局長兼論説副委員長	
北村 尚武	株式会社楽帆 代表取締役 C E O	
佐々木 淳	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授	副委員長
庄司 るり	東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門 教授	
新谷 浩一	東海大学海洋学部 准教授	
須野原 豊	公益社団法人日本港湾協会 理事長	委員長
高山 茂宏	静岡市清水区自治会連合会 会長	
田中 知足	国土交通省中部地方整備局 港湾空港部長	
田中 裕二	第三管区海上保安本部 清水海上保安部長	
田辺 信宏	静岡市長	
中原 正顕	国土交通省港湾局港湾計画課 港湾計画審査官	ワザバー
西尾 忠久	清水港運協会 会長	
二宮 芳樹	名古屋大学未来社会創造機構モビリティ領域 特任教授	
府川 尚弘	静岡ツーリズムビューロー ディレクター	
前田 英寿	清水みなとまちづくり公民連携協議会 会長	
望月 薫	清水港客船誘致委員会 会長	

### ■ 策定経過

- 2018年11月 5日 第1回検討委員会（課題整理、骨子案の検討）
- 2019年 2月 6日 第2回検討委員会（原案の検討）
- 2019年 3月27日 第3回検討委員会（修正案の検討）
- 2019年 4月 〇日～〇月〇日 パブリックコメント ※予定
- 2019年 〇月 〇日 公表予定

**《問い合わせ先》**

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部港湾局港湾企画課

(電話) 054-221-2614 (FAX) 054-221-2389

(E-mail) [kowan\\_kikaku@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:kowan_kikaku@pref.shizuoka.lg.jp)

